

## ■■防疫はしておくに越したことはない■■

季節性感染症の代名詞のようになっているインフルエンザを代表として冬は感染症のメインシーズンだ。日々様々な感染症の流行が報告され、報道されることは少なくなっても、新型コロナの流行も全く収束などしていない。その上コミケットはそれらの感染症が猛威をふるいやすい条件もそろっている。

感染症予防、つまり防疫はそれを行う人が多ければ多いほど流行を抑え込む効果が高まる性質のものだ。だからこそ、普段の生活ではもうあまり意識的な防疫を行っていない、という人であっても、自分が参加する日1日だけは、家を出るときから帰宅して外出着を脱ぐまでしっかり防疫を意識して行動してほしい。

コミケットはあくまで創造心と創作と同人誌のお祭りであって、様々なウイルスたちがパンデミックを引き起こす場ではないのだ。

### ■基本は万能■

結局のところ、防疫の基本は市井の一般人でも、病院の医療専門家でも変わらない。ウイルスが体内に侵入する際の最大の侵入口である口をマスクでガードし、その口や、他にも侵入口となりやすい粘膜部にウイルスを届けてしまう手指を消毒すること。マスクと手洗い／手指消毒は誰でもができる最も簡単な防疫ながら、その効果は折り紙つきなのだ。的確に行えば、インフルエンザ、新型コロナという最も代表的な2大ウイルスを筆頭に、数多くの種類のウイルス感染症を予防することができることは、数々の研究やデータが証明している。

実際問題として現在複数種類の感染を引き起こすウイルスが社会に存在していて、コミケットの会場や交通機関は極めて人口密度が高く、かつ疲労していたり睡眠不足で体力が低下している人々が高確率で混じっている。その上、全国津々浦々あるいは海外からも人が集まっているときたら、いつパンデミックが起きてもおかしくない。そういった場所に長時間滞在するなら、現在は着用義務はなくても、マスクを着用し、手洗い／手指消毒を励行するのは当然の自衛手段だろう。

#### ●マスクは正しく使おう

正しく着用することはもちろん、定期的に新しいマスクに交換する習慣をつけよう。とくに会場に到着してビッグサイトに入る直前、閉会してビッグサイトを出る直前には必ず交換し、マスクに付着しているかもしれないウイルスを会場に持ち込まない、持ち出さないことを心がけること。

また、防疫以外にもマスクには防寒と喉を乾燥やホコリから守る効果もある。冬の関東地方の空気は非常に乾燥していて冷たく、待機場や会場内はホコリも多い。朝の待機中などはマスクを着用しているだけで一定の保温効果を得られるだけでなく、喉の乾きを抑えてくれるので、やたらと飲物を飲んでしまってトイレの待機列にも並ばなくてはならない事態を回避してくれるかもしれない。

たった1枚の不織布でも、その効果の頼もしさは相当なものなのだ。

※ウレタンや綿布製のマスクでは期待の効果を得られない場合もあるため、着用するならできるだけ不織布製マスクの使用を推奨します。



●鼻が出ていては効果半減



●マスクが湿ったり汚れたら交換

#### ●コミケット前後も体調管理

インフルエンザや新型コロナには潜伏期間があり、感染したら即自覚できる症状が出るわけではない。また、最近の新型コロナや他の呼吸器系感染症は一見して風邪と区別が付きにくいものもあり、今やどこで誰が何に感染していてもおかしくない、という状況だ。

なのでコミケット参加数日前から自分の体調は意識して観察しておこう。不調や違和感を感じた場合『これくらいなら大丈夫だろう』ではなく、『今はまだこのくらいだが、もし何らかの感染症だった場合、出先で悪化したら自分も厳しいだけでは済まず、周囲に感染リスクを負わせてしまう』と考えなくてはならない。だからこそ無理をおして参加してはいけないのだ。その上、年末年始は病院も休みであることが多く、罹患してもすぐに治療を受けられるとは限らない。なお、コミケット後1週間ほど体調が変わりがなければ新型コロナ感染の可能性はほぼないと考えられる。そこで始めて、明けましておめでとう！